

阪神淡路大震災について、みよしのお話を聞いて自分はひごろから人との関わりなことが大事なことや、新聞社の方の人命や人けんを案たり、このことを伝えていかなという思いを築くことや、感じる事ができました。また、600人以上が亡くなった中でも神戸で400人以上が亡くなったことにしょうげきを受けました。この大地震で生きた人たちは、深いかなみを受けたと思いました。

このお話を聞いて、災害後の大変さを
くわしく知れました。ひな人形での
病気が、かせつ住宅で、一人でなくなっ
たりするということを語りついでいけた
らいいですね。本当にありがとうございました。

私は阪神淡路大震災のお話を聞いて

あらためて、震災で、こんなにも、大変で、ざんこくなものなんだと思いしらされました。

阪神淡路大震災では、しん度で、4人の命がなくなってしまう、4人のご家族の気持ちを考えると、とても心が痛みます。きつと、つらくて、悲しい気持ちになったと思います。

このことは、どの代になっても、語りつがなければならないことだと思いました。

そして、そのことを、伝える、新聞などは、

「一人にさせない、よりそう報道、よりよい読者をはげます記事、安全安心の情報、信らいてきる

情報を伝える」などのことが入切で大事なことを

知りました。一つ一つの災害からいろいろなことを学びました。その学んだことは忘れません。

みよしさんから話を聞いてビックリしたのはビル
がかたおけたことです。あとどこかで火事かおき
てみよしさんたちがしゃべりに行かなければ、自分
は死んでいただい、てい、ます。大震災での死者は
6434人でしたその中でもあわじでも2人ものたく
さんの方がなくなりました。次に新聞社で苦労し
たことです。新聞社では機械はこれ新聞
は発行でなくなっていましたそこで別の新聞社と協
力(新聞)を作りました。そこで苦労したのか、この期
間、でまじを出したらいいか苦しんだそうです。災害の時
はどう行なうとまじを付けること、よくしに役立つよう
うを付けること、です。最後にみよしさんはみじか
にいる人を大事にすること、を覚えてもらったそうです。

お話を聞いて、私は地震がおきたとあの「そなえ」と中々の位置の工夫とふだんから仲良く世することが大変だと思いました。あと新聞記者の人たちはすごいと思いました。なぜかという、自分も家族や大変な人たちがあがいていじょうきょうにたっているかもしれないのに、地震のじょうきょうを少しでも早く被害にあった人に伝えるという強い心がすごいと思ったからです。

震災が起こると、生活が苦しくなり不便になります。話を聞くと、「今まで休み以外で、新聞を書く事を休んだ事がなかったけど、数日書けなかった。」と話していました。ここで私が思ったのは、震災が起きて、自分も、身近な人も、パニックで、あわてて、そがしいはずなのに、一早くみんなに情報を伝えようと、新聞を書いた所が、大変なのに、ほかの人の事も考えるのはすごいなと思いました。話を、もと聞くと、地震には生き残ったけど、家にかえ、てねてるうちにガスで人が4人亡くなった。そして、大それたのが、地いきの人と協力する事と教えてくれた。地いきの人と、日ように話したり仲が良いと、何かあった時にたすけあえるから。と言っていました。私が思った事は、色々な人とたすけあい、みんなの事を考える事と、自然災害を止める事はできないけど、それについての考えは出来るから、今からでもする事が大切だと思いました。

私は、お話を聞いて公助・自助・共助の中で、

一番大切なことが共助だということを知って、

近所の人に積極的にあいさつを交わせたうなと

思いました。私が一番心に残ったことは、

「そばにいる人と一緒にいることが当たり前じゃない、

1日1日を大切にする」ということです。自分の大好

きな人と毎日過ごせているのは、とても幸せで、きせき

なんだ、ということを中心にいつも持ちながら生きていこう

と思います。阪神・淡路大震災では、へ伝えるそして、

忘れないをテーマにし、お話を聞きました。三好さんは

情報を伝えるために震災の中でもいしょうけんめい

記事をかいていることが伝わりました。記事には、

読者によりよい、はげます言葉をかいていたり、安心・

安全を第一に考えて情報を伝えていることがよく伝わり、

大変な思いをしていたんだなと深く感じました。

また、震災は「わかった」だけで終わらず、一歩一歩の

震災から学び、語り継ぐことを忘れないということをも

学ぶことができました。

阪神淡路大震災というのはあらためてきけんだとかくしんをした。

理由は6434人の方の命が亡くなり、もし、今阪神淡路大震災みたいな大きな地震がおきたらどうすべいかもよく分かった。

いつおきてもおだじょうぶなように、日ごろのそなえを大切にしようと思った。

三好さんのお話や当時の新聞、阪神淡路大震災
の新聞社をテーマにしたドラマを見て、一つ心
にのこったのは、大地震は、地震当日になる
まで全く予測できないということです。最近
はある程度は分かるようには、なっていていま
すが、それでも当たる可能性は、決して高
いわけではないと思いますし、普段から防災
の意識を高めることが、どれ程重要なこと
なのか、今回の授業でもとても身にしみて感
じました。それから30年がたち、震災の記憶
はどんなふうに残っています。ここ30年で、新潟
東日本、熊本などで相次いで地震が発生
しています。近い内に、南海トラフ巨大地震
も起るとされ、より一層防災意識を高める
ことが今後身を守ることにつながると思
います。

ぼくは、三好さんのお話を聞いて毎日
のしあわせはいっしょに地球になる
という事が神戸新聞の7日間を見て
わかりました。その中で京都新聞で
新聞をは、こうしたのが、いい
でした。あと神戸新聞が1回以上
なくなったというのが、不運だなと
思いました。三好さんがこの事を
わすれたくないと言っていて、ぼくも
同感しました。なので、未とやいとこ
にも話そうと思いました。

私は震災の話を聞いて、たくさんの県でたくさんの方がなくなってしまったことを聞いて心が少しくるしくなりました。

話の中に「みじかなんてつねに仲よくすることが大切」と言っていたので、これからみじかなんとつねに仲よくしようと思いました。

震災の後に震災でなくなってしまった人のことをわすれないことが大切だと知りました。

道路やビルがたおれてほうほど大きくゆれたことを聞くと、とても大きな地震がきた、ということがすごく分かるし、ひなん所にたくさんの方がひなんにきたことを思うと、とてもつらいと思うひなん者の方の気持ちがすごくつたわってしまいました。

これからはたくさんの人と仲よくすごしていきたいと話を聞いてあらためて思いました。

僕は、阪神淡路大震災のお話を
聞いて、心にのこったことは、フーフ
の震災もつぎにいかしていることがよか
たし、今でも地震がおきているけど
その震災から学んだことを、おぼ
くし、今も死者がへっている
ことが心にのこりました。そして
お話を聞いて、身近な人を大切にしま
うということ、はが心にのこったのでこれ
からは、身近な人を大切にしようと思
いました。

私はみよしさんの話を聞いて、
分かったことは、新聞を作る会社
は、阪神あわじ大震災でコンピューター
やいんさつをするやつなどかこわれて新
聞を出せなくなっただことを知って神戸新
聞は京都新聞と仲がよかったから京都
新聞の方たちが当時新聞を作ってくれて
くれたことが分かりました。

そのことを私は聞いてやっぱりいろんな人と
仲よく楽しく生きていきたいと考えました。

毎月のようにお母さんが引年になり
まね、ほしはまけはして
まね、おとどきのあそびしな

いって、お云、おしました。

たい、ちんも地、海、道、つ、地震
か、お、ました。あ、ちんも、は、本、地
に、お、ろ、ろ、しい、と、思、い、ま、す。

これから、お、ろ、ろ、と、お、ろ、ろ、と、南海
トラフ、巨大、地震、の、首都、直、下、型
地震、に、お、ろ、ろ、と、お、ろ、ろ、と、思、い、ま、す。

ぼくは 身近な人を大切に という言葉が心にのびまし
た。もしいまいしんが かきてお母さんお父さん友達
が 死んでしまったら、考えたくもありません。やはり身近な人
にかけがえのない人だ、いなので、大切にしなければ
ていけないと思いました。またあのDVD「神戸新聞の7日間」を
見て、いつでも新聞記者は みんなにどうこうをあたえる
という気持ちをおもっている、ということにありがたさを感じ
ました。三姉さん、2日間ありがとうございました。

ほくは、阪神淡路大震災のお話を聞いて

新聞社の方々の何としてでも今の様子を伝える事に必死な気持ちになれを動かされました。

新聞社の方々が大事にしている「一人にさせないよりそう報道」があるからこそ、

私たちはこの世界に安心して生活できている

のだなと感じました。また、阪神淡路大震災では死者6434人中神戸市4564人と

たくさんの方々が亡くなっています。

その中で新聞社の方々が、寄りそい、読者をはげます記事を書いたことで亡くな

た方々の家族や親せきの人からようこんでいたと思います。このように、多くの人の心を

いやすことができる新聞社のみなさんがすごいと思いました。

私は、阪神淡路大震災は、「とても大きな地震」、「たゞこの命が危なかつた」といふ
心、いいながら、たければ、三姉妹は、身近な人を大切にするとのお話を聞いた。おれ等
外、変わりました。確かに、その日、たゞこの人から、もとなり、神戸外へ、しゃんじして移した。
でも、その時、いろいろの方が、助けた。その中でも、近所の人や、家ごとかたてし助け
け合つたと思ひます。私は、家が壊れて、近所の人かとても入居するなどの、震災
にかゝり学んだり、たぬきがこまごまとした重けをするように、かしはうと思ひます。
それに、自分たちから、買物をしてたりする所から、地震で壊れる事を考えたら、
とてもおそろしい、悲しいと思ひましたので、たゞこのお家の近くを歩いた友人に言ふこと
けらあると、だくすばらしいなと思ひます。

＝だから、1995年1月17日、午前15時46分52秒のあの瞬間から、忘れ
られぬことと思っております。